

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 19 年 1 月 18 日 (2007.1.18)

【公開番号】特開 2000-199439 (P2000-199439A)

【公開日】平成 12 年 7 月 18 日 (2000.7.18)

【出願番号】特願 平 11-339121

【国際特許分類】

**F 0 2 C 7/00 (2006.01)**

**F 0 1 D 9/02 (2006.01)**

**F 0 1 D 17/16 (2006.01)**

**F 0 1 D 25/00 (2006.01)**

**F 0 1 D 25/28 (2006.01)**

【F I】

F 0 2 C 7/00 D

F 0 1 D 9/02

F 0 1 D 17/16 A

F 0 1 D 25/00 M

F 0 1 D 25/28 E

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 11 月 29 日 (2006.11.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変静翼アセンブリの組み立て方法であって、

ガスタービンエンジン用の可変静翼 (12) を用意し、該静翼 (12) は面 (30) と該面 (30) からずれた座 (28) とを有していて、静翼 (12) は互いにずれた第 1 及び第 2 の面 (32, 36) をもつスペーサ (14) と共に組立てられる構成となっていて、スペーサ (14) の第 1 面 (32) が静翼 (12) の座 (28) と係合するようになっており、スペーサ (14) の第 2 面 (36) が静翼 (12) の面 (30) の方を向くようになっており、静翼 (12) をケーシング (22) の開口 (38) 内に取付けて、第 1 のシール手段 (26) がケーシング (22) と静翼 (12) の面 30 の間にあり、ケーシング (22) が第 1 のシール手段 (26) と第 2 のシール手段 (24) の間にあり、座 (28) が開口 (38) を通抜けるようにし、静翼 (12) に固定具 (40) を取付けて、ケーシング (22) 及び第 1 及び第 2 のシール手段 (24, 26) が固定具 (40) の面 (50) と静翼 (12) の面 (30) の間に締付け荷重の下に締付けられるようにし、静翼 (12) の座 (28) の位置を検出し、前記座 (28) の位置に基づいて、その第 1 及び第 2 の面 (32, 36) の間のずれ寸法をもつスペーサ (14) を選ぶ工程を含む、可変静翼アセンブリの組み立て方法。

【請求項 2】

可変静翼アセンブリの組み立て方法であって、

ガスタービンエンジンに対する可変静翼を用意し、該静翼は軸線、その半径方向の周縁にあるフランジ、該フランジに対して軸方向にずれた多数の座及び軸方向に伸びるトラニオンを持ち、前記静翼をケーシング内の開口内に取り付けて、第 1 のシール手段が該ケーシング及び前記静翼のフランジの間にあり、前記ケーシングが第 1 のシール手段と第 2 のシ

ール手段の間にあり、トラニオン並びに少なくとも２つの座が前記開口を通抜けるようにし、固定具を前記静翼に取付けて、前記ケーシング及び前記第１及び第２のシール手段が、前記トラニオンを介して加えられた締付け荷重の下に、固定具と静翼のフランジの間で締付けられるようにし、ケーシングの開口を通抜ける２つの座の、前記第２のシール手段に対する位置を検出し、前記固定具を取除き、２つの座の位置に基づいて、その第１及び第２の面の間のずれ寸法をもつスペーサを選び、その後前記スペーサを前記静翼に組込んで、スペーサの第１の面が静翼の少なくとも１つの座と係合するとともにスペーサの第２の面が第２のシール手段と係合するようにし、前記スペーサのずれ寸法は、該スペーサが前記固定具から加えられた締付け荷重より小さい荷重を前記第１及び第２のシール手段に加えるようになっている工程を含む、可変静翼アセンブリの組み立て方法。